

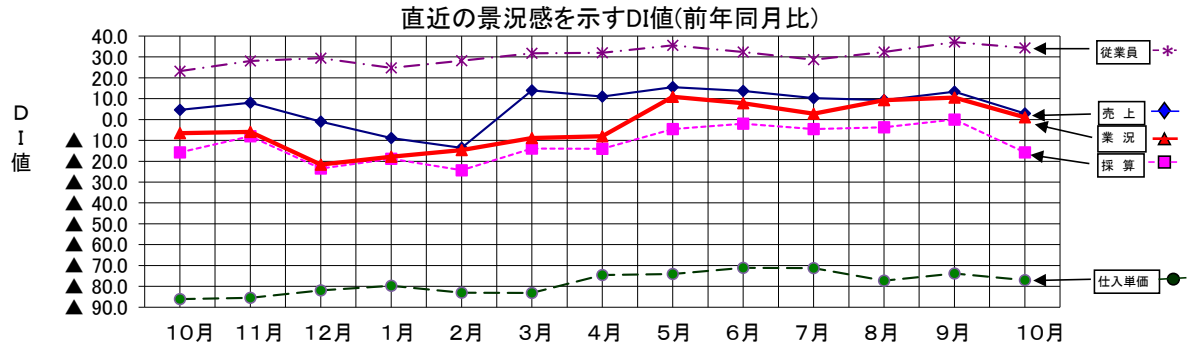
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分

【10月の概要】

物価高騰や人手不足が続くなか、
価格転嫁も十分には進まず、インボイス制度対応で追い打ち

直近の景況感を示すDI値は、全ての項目で下落し、先月21か月ぶりにマイナス水準から脱した「採算」は、再びマイナス水準に転じた。また、先行き見通しを示すDI値は、前月比で「売上」は11.1ポイント、「採算」は8.6ポイントと大幅に悪化している。

コメントでは、10月からスタートしたインボイス制度への対応に悩む声が多く見られた。また、依然としてエネルギーコストや資材等の高騰も続いており、価格転嫁が十分に進んでいない事業所では経営が圧迫されているケースが多い。人手不足問題も改善されておらず、引き続き苦しい状況が続くことが予想される。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)
(Diffusion Index の略)

	2022年 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2023年 10月
売上	4.6	8.0	▲ 1.0	▲ 8.9	▲ 13.6	13.9	11.0	15.5	13.7	10.2	9.3	13.3	2.9
採算	▲ 15.7	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8	▲ 24.3	▲ 13.9	▲ 14.0	▲ 4.6	▲ 2.0	▲ 4.6	▲ 3.7	0.0	▲ 15.7
業況	▲ 6.5	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8	▲ 14.6	▲ 8.9	▲ 8.0	10.9	7.8	2.8	9.3	10.5	1.0
仕入単価	▲ 86.1	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7	▲ 83.0	▲ 83.2	▲ 74.5	▲ 74.1	▲ 71.1	▲ 71.3	▲ 77.3	▲ 73.8	▲ 77.0
従業員	23.2	28.0	29.4	24.8	28.2	31.7	32.0	35.5	32.4	28.7	32.4	37.1	34.3

- ・プラス幅が減少したDI値：売上▲10.4ポイント、業況▲9.5ポイント、従業員▲2.8ポイント（需給均衡局面へ）
- ・マイナス幅が増加したDI値：採算▲15.7ポイント、仕入単価▲3.2ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
8月	15.7	6.5	9.3	▲ 48.2	36.1
9月	21.9	7.6	7.6	▲ 50.5	35.2
10月	10.8	▲ 1.0	7.8	▲ 50.0	38.2

- ・見通しが改善したDI値：業況0.2ポイント、仕入単価0.5ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲11.1ポイント、採算▲8.6ポイント、従業員3.0ポイント（人手不足局面へ）

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	ゼネコン	時間外労働の上限規制の適用を半年後に控え、労働力確保は引き続き厳しい。
建設業	管工事	仕事は増えてきているが、ガソリンや電気、資材等の価格高騰、人手不足が大きな影響を及ぼしている。
製造業	印刷	インボイス制度に振り回されている。
卸売業	水産物	十分な価格転嫁ができず、採算が悪化している。
卸売業	食品	インボイス制度は国民にどのようなメリットがあるのか？
小売業	ホームセンター	外出需要の高まりを受け、カー用品・レジャー用品は好調。一方で、耐久消費財の苦戦が予想される。
サービス業	ホテル	夏の終わりと共に人の動きが落ち始めている。エネルギー高騰、食材等値上げで自粛傾向。
サービス業	タクシー	乗務員不足が深刻であり、会社全体の売上が減るなか、経費だけが上昇し経営が圧迫されている。
サービス業	運輸	燃料価格が高止まりで推移しているが、価格転嫁が思うように進まない。
サービス業	警備	物価高騰や最低賃金の上昇により一段と厳しい状況が続いており、人手不足も依然として改善されない。